

書ききれない！私の怒り



- ① このコロナ禍でカジノ推進?!
典型的な「3密」空間に客を詰め込み、ギャンブル依存症を引き起こすカジノを推進する菅内閣。
- ② 辺野古埋め立て問題
沖縄戦の戦没者の遺骨が眠る土砂を埋め立てに使用しての辺野古基地建設強行。そもそも基地建設そのものに何度沖縄県民が「NO!」の審判を下したのか!
- ③ 政治家や役所職員の飲み会
口を開けば「ステイホーム」「コンビニで酒類提供をやめて」という小池都知事。国民の怒りをよそにおひざ元の役所の職員や政治家たちは飲み会。そのあげくにクラスター発生だなんて!
- ④ 福島第一原発の汚染水 麻生発言はとんでもない
汚染水の海洋放出を決めた菅政権。こともあろうに麻生財務相は「飲んででも何てことはないそうだ」との発言には開いた口がふさがらない。

(東野在住: M. H)

【編集後記】

<沖縄の海も山も叫んでいる>



私が住んでいるうるま市海中道路の入口交差点の柵にはH80cm×W180cmの横断幕が掲げている。この横断幕で目を引くのが、琉球セメント、安和土砂採掘現場の無惨な姿の写真だ。[沖縄県民よ、今こそ立ち上がろう][辺野古新基地建設強行 海も山も無惨な姿に!](うるま市民会議)の文字も書かれている。

前回のニュースに風光明媚な島嶼宮城島の記事を書いた。今年1月に帰郷して、4月21日に現場に足を運んだ。まあ見るも無惨な姿に悔し涙が出た。そればかりではなく、今、沖縄戦で犠牲になった戦没者の遺骨が入った可能性のある土砂を埋立に使用しようとしている。戦没者の遺骨を収集しているボランティアの具志堅さんは、「業者が目視で戦没者に配慮して土砂採取するのは絶対無理だ。間違っている」と語っている。4月15日の新聞記事に、2019年糸満市の壕から発見された戦没者の遺骨のDNA鑑定で北海道出身の旧日本兵(21才)と判明した。76年の時を経て故郷に帰ったとあった。沖縄県議会は「沖縄戦没者の遺骨を含む土砂を勝手に使用させない意見書」を全会一致で可決している。

今後も沖縄の歴史、基地問題に関心を寄せていただくことを願っております。(うるま市在住: T. I)

<コロナ禍を乗り越えて山口への旅を決行>

4月11日から二泊三日で天才童謡詩人「金子みすゞの詩とふるさとを訪ねる旅」に行ってきました。この旅行は昨年春中止になっていたのが、今年になって、実行されると旅行社から連絡が入り、家族に心配されながらも参加を決めました。

コロナ禍の旅行という初めての体験。旅行社の感染対策は以下のような状況でした。

○出発前日の14日前から「体調の記録」に体温と体調を記入して出発前に添乗員に提出する○旅行の直前にPCR検査を受ける(費用の9千円の半額は旅行社負担)○バスは左右1列に一人ずつ。車内の食事禁止。軽食を含め乗車前にすませる。○バス、ホテル、見学施設等の出入りの際、検温とこまめなアルコール除菌、手洗い、うがい、ソーシャルディスタンスを保ち、大きな声の会話は控える。○マスクは常時着用し、毎日取り換える。

みすゞの故郷の山口県仙崎は海に囲まれて島のような街並みでした。みすゞが卒業した小学校やお寺に詩碑があり、家々の軒先や玄関には詩の書かれた看板が飾られており、この土地でみすゞがどんなに愛されているかがよくわかります。

みすゞの生家2階の彼女の自室の窓からは、詩集の中の「仙崎八景」で優しく詠まれた郵便局や乾物屋が見えます。

20歳から移り住み、終焉の地となった下関では、代表作がたくさん生み出され、立派な詩碑が街のあちこちに建てられています。

立ち寄った市場では「コロナでつぶれてしまう」との不安の声や「バスで来たお客さんは今年になって初めてです」との歓迎の声も寄せられました。

いつになったら普通に旅ができるのか。自粛を国民に強いるばかりで、ワクチンはいつ打てるかもわからず、政府の無策には心底怒りを覚えます。

(高洲在住: K. A)

～ハイキングのお誘い～

- いつ: 6月13日(日)
- 行先: 我孫子市手賀沼周辺あやめ祭り
- 舞浜駅: 8:50集合
- コース: JR 舞浜駅→新松戸→我孫子
バス 市役所前下車
問い合わせ→ホリデーパスの会
真鍋 Tel & FAX 047-352-7735
MAIL: kmanabe@jcom.home.ne.jp



みせ麻里市議議会報告



4月24日(土)に弁天見明川団地へ「75歳以上医療費窓口負担2割化撤回を求める請願署名」のお願いに伺いました。訪問すると「Mさんポストに届けましたよ」と、何人もの方から返答あり、感激しました。事前に署名用紙や資料を配布させていただき、Mさん宅ポストへの投函依頼についても資料に記載してありました。突然の訪問に対応いただきありがとうございます。

2008年当時の麻生太郎首相は、75歳以上の原則1割負担を「ぜひ維持したい」と明言していました。ところが、現在は現役世代負担軽減などと高齢者と対立させ、2割負担の政策を推進しています。

すでに3割負担の「現役並み」所得の人と合わせると、75歳以上の約3人に1人が2割負担以上となります。「医療費2倍化」の強行は、きっぱりとやめるべきですね。

コロナ禍でも、地震や豪雨災害を心配する日々が続いています。今を生きる私たち、孫やその孫たちも安心して生きていくことができる社会が希望です。隣国と平和外交し、協力し合い、英知を結集することが必要不可欠ではないでしょうか。

さあ一緒に「もう政権交代を!本気の野党共闘で!」
◇団地内の見事な大木にほっこりしていると、市の保存樹木のプレートがあり、思わず撮影しました。



～ジェンダー平等に想うこと～



「ジェンダー平等」... 社会全体の、そして一人一人の体にしみついた不平等。本当に根深いと思います。私には娘がいます。女の子はどう育てるかをずっと意識してきました。

娘が3歳を過ぎたころから「女のくせに」「女の子でしょう」とは言わないようにしました。そして男の子の言動についても「男の子は強くなければ」「男はこうあるべき」という見方をしないように言い聞かせていました。洋服も女の子用を無理強いしないようにした結果、小学生の間はずっとTシャツとズボンで過ごした娘は卒業式で初めてスカートをはいたら、校長先生から「あなたは女の子だったのですね」と言われたそうです。

私が一番男女の不平等を感じたことは、結婚するときの姓の選び方です。男性の姓に変えるのが当然という風潮に疑問を抱き、夫となる人に「どちらの姓にしますか?」と聞いたとき、私の方の姓になるのは即座に「嫌だ」と断られました。普段は男女平等や民主的な考え、行動をしている人だったので、この返事にはびっくりしました。女性だけが結婚で姓を変えられ、保険証や公的書類のすべてを印鑑までも新しい姓にしなければならぬ煩雑さを、どれだけの男性が理解しているのでしょうか。

社会的、文化的につくられる男女の格差、何としても克服したいものです。(今川在住: T・N)